1．意　見

子供の頃から天塩川は私たちの冒険心を満たしてくれるフィールドでした。そして今もなお一愛好者として天塩川に親しんでいます。自然保護論者からすれば、手つかずの自然の姿を多くにいくことが理想なのでしょうが、流域で生活している者にとっては、常に安心して天塩川を身近に感じていうることが大切だと感じています。そのためには今後「適切な開発」ということが、治水、利水、そして自然環境の保護とを結びつけていくための最良の方法であると思っています。